

前腕運動器 ～前腕くるりん～

医療法人(社) 日本鋼管病院
錠内広之

【目的】

前腕の他動的関節可動域改善訓練

【制作経緯】

前腕の回内、回外を訓練するには、従来は徒手的な手技に頼ってきた。しかし、当院では、整形外科的疾患の患者さんが多く来院するため、その訓練効果を高めるためにも自主トレの時間を多く作る必要があった。この動作に関しては、市販品の訓練道具はあまり存在せず、もしあったとしても高価なため自主製作に至った。

【道具の機能性】

重さ: 1.1kg

角度調整: ゴムにより調整する。ゴムの本数や種類によって段階付けが可能である。また手指の握り手部分は、握力が弱い場合や手関節の過度のねじれを防止する為に、別途バンドやカックアッププリントを使用する場合もある。

アライメント: 前腕の軸に合わせて前方に伸びているパイプは、左右に回転する仕組みになっており、回内、回外動作時に前腕軸の微妙なずれに対する修正が可能である。

【使用例】

<対象疾患>

とう骨遠位端骨折や肘関節周辺の骨折後、前腕の関節可動域に制限を引き起こしている疾患。

<使用方法>

他動運動としては、椅子座位で肘90°屈曲位で道具を装着する。目的の運動方向に対して、ゴムで牽引する。ゴムの種類や本数によって矯正力を調整する。通常は1回、5分～10分実施する。

自動運動としては、設定は上に同じ。目的によって、ゴムを使用せずに行う運動やゴムの牽引力を利用した抵抗運動を行う。これも、通常は5分～10分実施する。

【効果】

前腕の関節可動域改善に有効。この場合、自動運動、他動運動共に、セッティングを工夫することで、強化することが可能である。

<道具使用のメリット>

肘関節を90°に固定し、前腕運動の基軸を一定にすることが可能な為、正確な回内・外の運動を行う事が可能である。

<道具使用のデメリット>

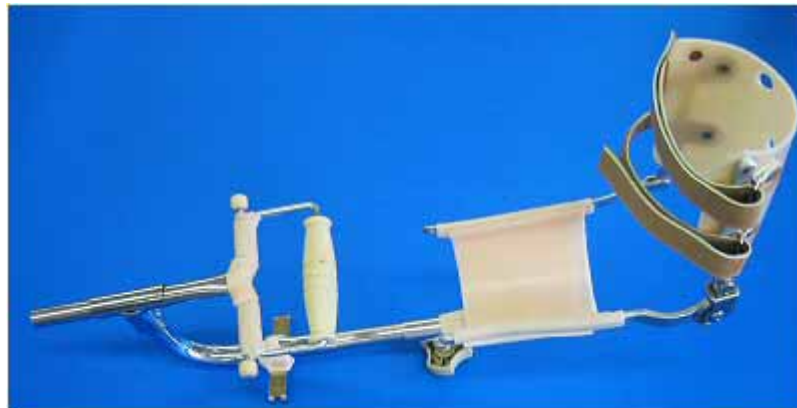
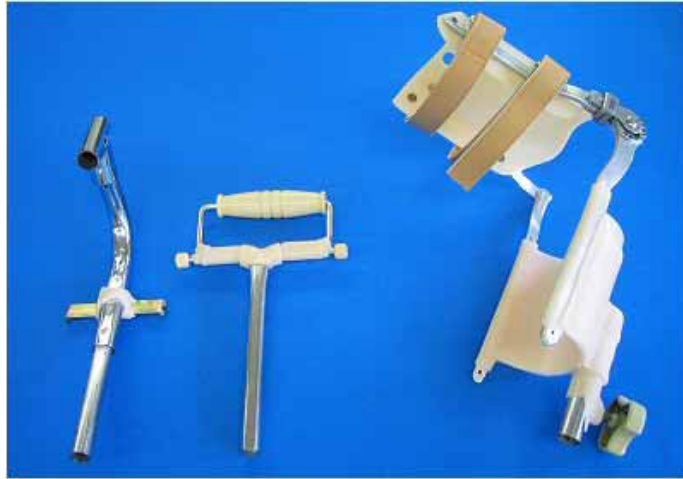
骨や関節に変形のある場合は、前腕軸の調整を慎重に行わないと、炎症を引き起こす可能性もある。

前腕くるりんJ

目的	前腕回内外の他動的 ROM の向上
準備素材	肘装具、オルフィット、パイプ各種、ねじ各種
使用道具	パイプカッター、ドリル、スプリント作製用具一式、ドライバー

肘の外傷後の患者様より寄贈してもらった治療用の肘固定装具をもとに、以下のよ
うに創造して作る。

製作方法



使用場面

